

年頭のご挨拶

静岡県保険鍼灸マッサージ師会
会長 中村 聰



あけましておめでとうございます。

昨今の日本は、物価高騰、自然災害、人口の減少による社会の縮小など、安心して生活していく上の不安が高まっています。国の社会保障給付費は約90兆円強で、その内訳は年金が約5割、医療が約3割、福祉その他が約2割で、この給付費は主に保険料と税でまかなわれており、その内訳は保険料が約6割、税が約4割となっています。また高齢化の進行に伴い、社会保障給付費は年々増加して約100兆円と見込まれており、社会保障費の経費節減のためには健康維持と健康寿命の延伸が望まれます。

これから私たちの業界が果たすべき役割は益々大きくなると考えています。「社会保障費の抑制と患者満足度の向上による社会貢献」を掲げるならば、近代医療に加えて伝統医療である東洋医学を有効に活用することが重要です。「木を見て森を見ず」という言葉がありますが、西洋医学は疾病の本体を究明し、その治療戦略を追求する一いわば「木を見る」医学の体系です。一方、東洋医学は人全体の不調を見抜き、心身の調和と正常化を図ろうとする一いわば「森を見る」医学です。西洋医学は今後ますます専門分化が進み、ダヴィンチ手術などのハイテク医療機器も普及し、さらに病気を早く治せる時代となるでしょう。しかし、人間の存在は部品の寄せ集めではありません。心と身体の両面から診るという伝統医療の理念は、現代医療においても極めて有力な方法論であり、低成本で患者満足度を高めることが可能な、私たち業界の大きな強みであります。

ノーベル賞を受賞された北川進博士は、莊子の言葉「無用の用」を紹介されました。私なりに読み取ると、「高度成長期には合理性と速さを求めるがゆえに脇役に追いやりられた私たちが、少子・超高齢社会を迎えた今、極めて重要な役割を担うことになる」という意味に通じるのではないかと思います。

医療・介護・障害福祉を総合的に支援する可能性を秘めた私たちの業界が、社会保障の中で価値ある存在として位置づけられるよう、業界全体で力を合わせ、社会にしっかりと根付かせていきたいものだと思っています。

令和8（2026）年は「丙午（ひのえうま）」にあたり、情熱・変化・飛躍を象徴する年とされています。皆様とともに、健康・幸福・成功へつながる素晴らしい一年となりますよう、会員の皆様と執行部は、協力・協同で共に力強く歩んで行きましょう。